

ごあいさつ



年号が平成から令和へとかわり新たな時代が幕を開けましたが、新型コロナウイルス感染が世界中に拡大しありとあらゆる分野に影響が及んでいます。ホスピス病棟34床、療養病棟207床の当院ではほとんどの入院患者さんがいわゆるハイリスクのため感染予防を最重要課題として取り組んでおります。季節インフルエンザと同様の対策に加え職員の出張の自粛や病院行事の中止、ついには入院患者さんへの面会制限も追加せざるを得なくなりました。1日も早く終息することを願いながら感染予防対策を続けています。

今年度、ホスピスに関しては診療報酬改定による緩和ケア病棟入院料1の要件見直しもあり、特に外来での症状緩和に重点を置きます。外来と入院の切れ目ない緩和ケアにより病状変化に迅速に対応することで、安心して生活を送っていただけるように努めてまいります。

療養に関しては入院治療を必要とする慢性期の患者さんの受け入れを積極的に行なっており常に病床稼働率99%以上を維持していますが、年々ますます重症患者さんや病状の安定しない患者さんが増え、入退院

副院長 船木公行

も激しくなっています。中心静脈栄養、酸素吸入、人工呼吸器（現在24台前後）など医療区分3の患者さんが大多数を占めるなか多職種連携によるチーム医療により、病状の改善・安定化に努めております。

今年度当院においてもようやく電子カルテが導入されます。今後、より一層の業務改善が図られ、安全な医療の推進に寄与するものと考えております。これからも患者さんご家族お一人お一人に「この病院に入院して良かった」と思っただけのような安心・安全な医療と入院生活環境の提供を全職員チーム一丸となって進めてまいります。



外旭川病院 脇の桜並木

働くスタッフに クローズアップ



仲間とともに

療養病棟（新3病棟）師長 鈴木典子

3月より、ホスピス病棟から療養病棟の看護師長として異動となりました。

病床数56床の病棟で、人工呼吸器患者6名、気管切開している患者は21名。医療区分3が70%以上を占め、ほぼ全員が介助を要する患者さんです。



私が師長として療養病棟に異動し、最初にしたことは、とても活気があり、元気で明るい職場ということです。スタッフは、患者さんによく声をかけており、笑い声が聞こえてきます。介護、看護が連携・協働し日々のケアが行われており、コミュニケーションの良さがケアにつながっていると感じました。



カンファレンスでは、患者さん・ご家族の意向や気持ちに寄り添い、チームで話し合われています。自分で表現することが難しい患者さんに対し、ほんの少しの表情の変化や手足の動きなどから想いをキャッチし、その方が安心して療養生活を過ごしていただけるような「やさしさ、思いやり」のある意見交換や情報共有が行われています。

療養病棟に異動して間がなく、まだまだわからないことが多いですが、思いやりのある仲間とともに、より笑顔と優しさあふれる病棟を作っていきたいと思います。

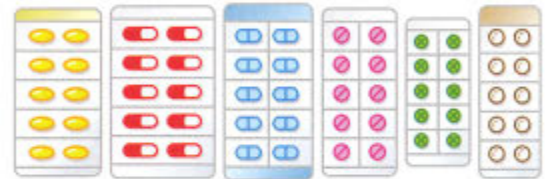


部署の紹介 薬剤科

診療技術部部長
薬剤科 科長 佐藤正樹

薬剤科は4名の薬剤師と2名の事務員で構成されており、調剤業務・病棟の薬品管理を含めた院内の医薬品関連業務を主とし、ケースカンファレンスへの参加や医療安全、感染制御チームなどの各種委員会等にも参加し、薬剤師の視点からチーム医療に携わっています。

当院の大きな特色として、入院病床が療養とホスピスの2つに大きく分かれているということがあり、そこが薬剤科の業務にも大きく関わっています。一般的に薬はヒート（シート）でのお渡しが多いかと思いますが、下剤等、個別管理が必要な薬剤を除き、原則処方箋内の薬剤を一包化で払い出しています。これは当院では高齢者の方が多いため、服用の際に管理が楽になるようにと行っています。また、持参薬業務にも特色が出ています。当院では全入院患者の持参薬の確認を行っていますが、ホスピスの患者さんなどは入退院が多かったり、複数の診療科を受診されていることが多く様々な薬を持参される方や歴代の薬などを袋いっぱいを持参される方がいるため、持参薬の確認業務では細心の注意を払いながら業務を行っています。



▲ヒート（シート）でお渡しとは、薬のパッケージそのままの状態でお渡しすること。



▲安全のために、1回分の薬をまとめて（一包化して）患者さんごとに分け、病棟に払い出しています。

その他にも後発品の採用にも力を入れています。2014年3月末日で42.2%であった後発品の採用率ですが、2020年2月末日で87.3%まで上昇しています。新規採用の際には後発品を選択する、使用の少ない薬品を採用から削除する等の対策を少しずつ行ってきた結果ですが、これは採用薬削除に賛同してくれた医師、薬剤名が変わってもインシデントを増やさず対応してくれている看護師をはじめとする院内全ての職員の協力あってこそその数字です。

後発医薬品の採用について



薬剤科ではこれからも入院・外来の患者さんに安心して薬剤を服用・使用していただけるように業務を行ってまいります。



緩和ケアチーム

緩和医療専門医

松尾直樹

当院には秋田市内において唯一、専門的な緩和ケアを提供するホスピスがあります。さらに、そのホスピスでの専門的な緩和ケアを療養病棟においても提供するのが緩和ケアチームです。緩和ケアチームは、身体症状を担当する医師、精神症状を担当する医師、看護師、薬剤師、理学療法士、メディカルソーシャルワーカーから構成されます。

緩和ケアの対象となる症状は様々です。痛みのほか、息苦しさ、疲れやすさ、食欲不振といった身体の症状のほか、不安や抑うつ、せん妄といった精神の症状も対象となります。これらの症状で困っているのは、がんの患者さんばかりではありません。がん以外の患者さんも対象となります。それらの症状に対して、主治医や各病棟のスタッフと協力して緩和ケアの専門的な立場からお手伝いさせていただきます。緩和ケアチームのもう一つの役割として機能の充実が求められているのが、外来での緩和ケアチームによる診療です。ホスピスに入院する前の段階で、あるいは、ホスピスに入院後、自宅や施設に退院された後の段階で、外来でも専門的なチームによる緩和ケアの提供をしています。緩和ケアチームによる診療を希望の方は、主治医または病棟の看護師までお知らせください。

医療法人惇慧会 外旭川病院



〒010-0802 秋田市外旭川字三後田142
TEL 018-868-5511 FAX 018-868-5577

《Web》 www.jkk-sotohp.or.jp/sotohp/
《Mail》 sotohp_kouhou@jkk-sotohp.or.jp

■病床数241床（療養病棟 207床、緩和ケア病棟 34床）
■診療科目/内科、皮膚科、リハビリテーション科

